

古文書修復実習

日時 2016年3月6日(日) 10:00-17:00 3月7日(月) 10:00-17:00

会場 神奈川大学横浜キャンパス 3号館地下2階 日本常民文化研究所古文書修復室

講師

田上 繁 (神奈川大学日本常民文化研究所所長)

関口博巨 (神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・跡見学園女子大学講師)

白水 智 (神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・中央学院大学教授)

山口悟史 (東京大学史料編纂所技術職員)

内容 基本的な古文書修復技術の説明及び実習 ①現状の記録・解体 ②修理(繕い・裏打ち)
③復原(化粧裁ち・製本) ④襖や屏風などの下張り文書の剝離の工程実習

全国の資料保存機関勤務者の 参加による修復実習報告

田上 繁

2015年度の活動

今回で19回目となる古文書修復実習講座は、2016年3月6日(日)・7日(月)の2日間にわたって開催された。今回も古文書修復の基本である、①記録・解体、②修理(繕い・裏打ち)、③復原の3工程の作業と、近年、歴史資料としての重要性が増している襖下張り文書の剝離技術の習得を内容としている。

参加された21名全員が、公文書館、文書館、博物館や、教育委員会、図書館などの資料保存機関に勤務される方たちである。日常的に古文書などの歴史資料の整理業務に従事され、古文書の保存や整理方法、修復などの技術を習得する必要性に迫られて応募されたものと思われる。「受講者アンケート」の中には、次のような感想が述べられている。

(1) 修理は、私の日常業務と最も近いところではありますが、自身は専門的な指導を受ける機会があまり無いまま日々の作業をしています。ずっと迷いながらやっていたこと、また、やれなかつ



写真1 会場風景



写真2 記録/古文書の撮影方法の実習



写真3 修理/裏打ち. 和紙を裏から貼り補強



写真 4 修理／裏打ちした本紙を仮張りに張る



写真 5 修理／繕い。欠損部分を補修紙で裏から埋める



写真 6 復原／化粧断ち。余分な裏打ち和紙を裁断



写真 7 剝離／襖の下張り文書を剝離



写真 8 剝離／剝離した本紙を毛氈上で乾燥



写真 9 修了証書授与

たことを少し明らかにすることができそうです。……明日よりすぐ活かせるもの、今後ゆっくり時間をかけて体系化していくこと、本当に勉強になりました。また是非受講したいと希望します。

(2) 2日間ですぐに何か出来るわけではないと思いますが、今後、仕事上役立てていくための足がかりになった講習でした。まずは今回教えて頂いたことを基にして勉強し、技術についてはみがく場がないので、技術向上については今後どうすべきか考えなくてはと思いますが、今回の講習で博物館が理解しておくべき知識は学べたと思うので、今後の業務に生かしていきたいと思います。

(3) 実技に特化するだけでなく、史料を取り扱う上での理念や原則、記録の取り方や調査への取り組みなど広い範囲で、史料保存に必要な研修を網羅した内容でとてもありがたく感じました。

(4) 古文書を守り、伝えていくための技術や大変な労力、地道な作業を学ぶことができ、古文書に関わる人間の一人として貴重な経験ができた。

上記の感想は、本実習講座の目指すものと合致するものでもあり、受講者にとって少しでもお役に立つところがあれば、講座を開催したことの意義があったといえよう。

ほかにも、次のような貴重なご提言をいただいた。今後の課題としたい。

(5) 近現代の酸性劣化の進んだ歴史的公文書の修復なども課題となっておりますので、実習内容に追加することも検討いただけるとありがたいです。

(6) 各大学、機関で連携し合い、歴史的研究だけではなく、資料を扱う立場上、こういった実習を受けられるような体制が出来ればと思った。